

## 2015年2月 スリランカの旅

スリランカは古い歴史を持つ熱帯の国である。その歴史を尋ねる旅であった。

行程は阪急交通社のスリランカ6日の旅、2015年2月6日午後1時15分出発、同21日午前11時30分帰国を利用した。現地4泊、機中1泊である。

1948年、英連邦自治領セイロンとして、1972年、スリランカ共和国として正式に独立、公用語をシンハラ語、宗教を仏教とする事を新憲法で宣言。サンフランシスコ講和条約締結後、1951年にはいち早く日本との外交関係を樹立、「恨みには慈悲を持って望み、日本に戦後賠償を求めることはしない。」とした。

マハーワンサと呼ばれる伝承の叙事詩によれば、BC543年、世界は古代ローマの時代にシンハラ人の祖先とされるウィジャヤ王子がランカ島（セイロン島）に王朝を建設したとされている。その後、BC377年に王都アヌラーダプラが建設され、BC247年にはインド・ブッタガヤからサンガミッタ長老尼により菩提樹がもたらされた。ブッタガヤの母樹は5世紀にインドに於けるシヴァ神を戴くヒンドゥー経の弾圧により切り倒されたため、この樹齢2300年といわれるスリーマハー菩提樹が現存する最古の仏陀直系菩提樹である。ちなみに現在ブッタガヤにある菩提樹はこのスリーマハー菩提樹の孫木である。



アヌラーダプラはセイロン島中央部のやや北寄りに存する世界遺産の町である。

まず訪ねたイスムルニヤ寺院は、岩山をくり抜いて建造された石窟寺院であり、中には極彩色の涅槃像が納められている。ここはなぜか精舎と呼ばれており、4世紀には仏陀の犬歯だといわれる仏歯がインドのカリンガ国からもたらされ、ここに初めて祀られたとされる。「チューラワンサ小史」によれば、仏歯は王権の権威を保証する証であり、当時の様子は法頭の「仏国記」に描かれている。これ以後、王都が移動するたびごとに仏歯も移動して、現在はキャンディの仏歯寺に納められている。仏歯は仏陀の聖遺物の仏舍利として崇拝されると共に、強い力を持つものとして神のように祀られた。エサラ月にあたる7月の満月を頂点とするエサラ・ペラヘラ祭では、仏歯が象の背中に乗せられて、神々の象徴である武器と共に町中を練り歩く。ペラヘラとは行列の意味で、かつての王国の秩序が目に見える形で示される。仏歯は雨を呼ぶともいわれ、作物の豊作をもたらす祈願の対象でもある。



続いて訪ねたルワンウエリサーヤ大塔はBC2世紀の建立で、高さ55m、直径80mの巨大なストゥーパであり、建造当初はこの2倍の高さがあったとされる。煉瓦を積み上げて建造されており当時の技術に驚嘆する他はない。

この町は993年、南インドで勢力を増していたタミル人のチョーラ王朝により征服されて荒廃したが、現在は再び聖地として崇められている。アヌラーダプラはコロンボから北へ約150km、スリランカの文化三角地帯と呼ばれる世界遺産の多い、王都が変遷した地域の頂点に位置している。

そこから数十キロ南東に走るとシギリヤレディの居る岩山の上の宮殿、シギリヤロックに着く。シンハラ王朝の5世紀、スリランカ各地に貯水池を作り、平和と幸福をもたらした立派な王様、ダットウセーナには二人の妃がいて、一人ずつ男児をもうけた。兄のカーシャパは血筋が悪く、弟のモッガラナーは血筋が良かったので王位は弟が次ぐと思われていたが、ミガラ將軍はカーシャパを王にするため「王が弟のために莫大な財宝を隠している」とカーシャパに嘘を吹き込んだ。面白くないカーシャパは、王のところに使者を送り、隠した財宝はどこかを尋ねたところ、王はカーシャパを一番大きな貯水池「カラウエーワ」に連



れて行き、「この貯水池が私にとって一番の、そして全ての宝だよ」と答えた。ところがカーシャパは自分がバカにされたと思って怒り、ミガラ将軍に命じて王を殺し、478年、自分が王位に就いた。しかし、インドに逃れた弟がいつ攻めて来るか分からないので、都をシギリヤに遷し、岩山の上に宮殿を建てたものの、495年、インドから戻ってきた弟に敗れてカーシャパは自害し、都もアヌラーダプラに戻された。それ以降2～3世紀の間は聖地として崇められていたが、その後は1853年、イギリス人の手により発見されるまでこの地は忘れ去られていた。

シギリヤロックは高さ約200m、頂上平坦部の広さは約2ha、ロックの麓には整然とした町並みが作られ、ロックの壁面には美しい女性の壁画が描かれた。その壁画の色彩が今でも鮮明に残っており、これがシギリヤレディと呼ばれている。そこまでは狭い急な階段と垂直に作られた螺旋階段を120～130m登らなければならない。その上にライオンの形をした入り口があり、現在は両足の爪しか残っていない。頂上にはそこから更に80mくらい登ることになるが、ここで断念しては残念との思いから元気を出して登ることとする。頂上では約1500年前、18年しか続かなかったカーシャパ王朝の宮殿跡、山上の池、麓の町並みなどを望むことができ、往時が忍ばれる。

ここから約50kmのポロンナルワは、993年、タミル人のチョーラ王朝によりアヌラーダプラを追われたシンハラ王朝が築いた二番目の都。僧院ワタダーゲはポロンナルワ最古で7世紀建造の円形寺院だったがというが、現在は天井部分が崩落して円形の壁だけが残り、中心に石像が安置されている。ランカティラカは仏像の頭部がないが、高さ20m近い建物の中の巨大な仏像で、その脇には中くらいのストゥーパがある。ガル・ヴィハーラは3体の仏像の横に涅槃像があり、仏陀の一生を表しているという。特に3体目の仏像は珍しい腕組み姿で、腰にもひねりがあり、人間世界をひどく心配しているという。



ポロンナルワをあとにシギリヤに戻ると、シギリヤビレッジというリゾートホテル。木造平屋のバンガロー風で、とても味がある。庭にはかかしや水溜用の巨大な瓶などが置いてある。



翌朝、石窟黄金寺院ダンブッラへ向かう。ここは岩山をくり抜いて第1窟から第5窟まで主な寺院が掘ってある。寺院の歴史は紀元前3世紀にまで遡る。その当時から僧院として機能していたが紀元前1世紀、シンハラ王朝第19代国王ワッタガーマニー・アバヤがタミル人に攻められてアヌラーダプラから追放されたが、ダンブッラで僧たちにかくまわれ、15年後に再びアヌラーダプラを奪還した。その感謝の印に僧院は寺院へと格上げされ、金箔で飾られて多くの仏像が寄進された。



1255年、シンハラ王朝は南インドのバーンディヤ王朝に負けてポロンナルハ時代の終焉を迎える。その後は国内の混乱が続き、1592年、キャンディに都が築かれ、仏歯も運ばれて仏歯寺が建立されるが、1611年、ポルトガルによりキャンディは占領された。その後キャンディ王国はオランダに支援を求めるが、1802年アミアンの和約によりオランダ領は全てイギリス領となる。1815年にはキャンディ王国滅亡、イギリスの植民地となる。ここにキャンディの560年にわたる都としての歴史を閉じるとともに、シンハラ人の支配は終焉を迎えた。そして1948年、英連邦自治領セイロンとして独立、1972年、スリランカ共和国として真の独立を果たした。

キャンディで文化を伝えるものは仏歯寺、キャンディ湖、キャンディダンスが主なもので、ホテルが山の中腹のアマハヒルズという標高500mくらいのところにあった。

